



間から超越したところで普遍的なものを求める、そういうした場なのだ。

もちろん、「会話」という方法は、世界を理解しようとするためのひとつの方法に過ぎない。ある人はそれが芸術に昇華するかもしれないし、ある人は科学や書物にそれを求めるかもしれないし、もつと素朴に自然に親しむことを選ぶ人もいるかもしれない。